

平成 29 年度・第 3 回 放送番組審議会議事録

1. 開催年月日 2017 平成 29 年 9 月 21 日(木曜日)
2. 開催場所 弊社事務局
3. 委員出席 委員総数 5 名、出席委員数 5 名
 - (1) 出席委員の氏名 小坂康雄、中村真弓、得上成子、栗原さつき、安藤一宏
 - (2) 欠席委員の氏名 無し
 - (3) 放送事業者側出席者名 技術統括・放送担当 岩田豊 放送局副局長 棟方智子
4. 議題及び議事の概要、審議内容

はじめに 放送担当より挨拶、審議員委員長より挨拶

- (1) 報告事項 スマイルカフェ・イブニング「防災士ゲストコーナー」
- (2) 審議事項 10 月度からの放送番組改編について
- (3) その他事項 今後の放送番組審議会開催日程について

5. 審議機関の答申または意見に対してとった措置の内容

(1)

(放送担当より)

今回の報告番組は、毎週金曜日の 15:00 から 17:00 の 2 時間の枠で生放送を行っている番組のうち、一部のコーナーご案内となります。番組全体としては、本年 4 月度より生放送を始めており、他の曜日も同じように、それぞれ異なる担当パーソナリティが対応しているのですが、今回のご案内番組については、ちょうど当日、防災の日に関連して、近隣地域でご活躍されている認定防災士の方々をゲストに招き、ご本人様から、その職務、活動、持っているスキルなどをリスナーの皆様へ直接お伝えするトーク内容と致しました。今回ご審議いただくのは、9 月 1 日(金)に放送した生放送番組より抜粋した内容となります。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

(番審委員より)

私は初め、防災士とは消防団の方々や消防士などと同等に、確立した職務をお持ちの専門家であるという認識でいましたが、今回の放送を聴き、その話の流れの中で、防災士という資格の持つ意味と役目を、ようやく理解することが出来ました。行政と地域をつなぐ防災に関する専門家であると同時に、災害時には地域のボランティアリーダーたる資質を持つ方々、ということになるのでしょうか。放送番組の中での紹介方法を考えると、事前のヒアリングなどを通じて、コーナー冒頭には、防災士とは何をする人? といった内容で、MC さんから具体的な説明があったほうが、リスナーは理解し易いのではなかったかと感じました。

平成 29 年	株式会社エフエムこしがや	CFM	第 29-03 回番審
---------	--------------	-----	-------------

(番審委員より)

防災に関しては、強く興味のある分野の話であったのですが、番組企画を存じ上げなかったことと、当日は所用もあり生放送を聴くことが出来なかったことが残念でした。昨今、自治会等を単位とした諸地域に於ける災害発生等への危機意識の高まりと併せて、今後もこのような企画を増やしていただければ良いと思います。

(番審委員より)

今のお話に有ったように、事前に放送内容の詳細を知っていたらキチンと聴けたのになあ、というニーズは今後もあると思います。このような特別な企画、放送局が運営のテーマとしている企画があるときには、webなどを活用した事前の告知や、番組終了後に、その放送内容を文章等で説明するといった施策が、放送局の認知度の拡大、今後のリスナー拡大に役立つのではないかと思います。

(放送担当より)

貴重なご意見ありがとうございました。今回の企画は準備に時間が足りなかったため、事前告知、ご案内の不備などが多くありましたことを反省していますが、急遽なご相談にも関わらず最終的には、防災士会会長様、参与様とともに越谷市内の現役防災士様にご出演いただくこととなり、多くのお話をリスナー皆様にご紹介させて頂き、また大変リラックスした雰囲気の中で放送を終えることが出来ましたことを併せてご報告させていただきます。また今回のご縁から、ご出演の皆様とは引き続き情報交換を進めさせて頂き、今後はタイムリーな防災トピックスのお知らせなどを念頭に、日常的な情報共有の場として、継続的な新番組企画も検討して参りたく考えております。

(2)

(放送担当より)

10月の番組表を皆様にご案内させていただきます。ご案内の通り、新クール10~12月度からは全体的に大規模の改編を予定しており、①現在の生放送枠の放送時間の拡大、②番組内容とカテゴリの見直し、③各番組の放送時間帯の見直し、④新番組の追加等を行う計画です。配布させていただきました資料をもとに、全体を通じて、また個別の番組内容等も含め、ご意見をいただければ大変幸甚に存じます。

(番審委員より)

放送局の使命を忘れず、行政、生活、防災、教養、娯楽など、それぞれのカテゴリについてバランス良く配置されることが望ましいと考えます。また放送番組は、広く若年層から高齢者まで、地域の皆さまが聴きやすい内容となるよう工夫をお願いします

(番審委員より)

少ないスタッフで出来ることにも限界があるのかなと感じる時があります。今回の番組改編で、そういった問題に対する対策や留意したことなどはありますか？

(放送担当より)

生放送はラジオ局の柱と考えていますが、従来の番組計画(表)では、局の対応が煩雑となるケースが多かったため、その点を整理し生放送時間帯を定常化するよう工夫しました。担当MCも若干増員しています。

(番審委員より)

パーソナリティを市民から募っている事情から、個人的な知り合いが番組を持たれている事例があります。他の会合などでお会いする機会もありますので、番組の宣伝活動など、もっと積極的に応援したいという気持ちになります。今後も、こういった市民感覚を大切にしていきたいと願っています。

(放送担当より)

今回も、全体の番組構成について、大変貴重なご意見を頂戴し、大変有り難うございました。局の番組企画としましては、研修を終えた市民パーソナリティの新規登用も視野に、幾つか番組を増やす見通しが立っています。今後も、皆様より頂きましたご意見を元に、関係各所の連携とともに、魅力ある放送局の実現に向けて努力してゆきたいと思えます。大変ありがとうございました。本日頂戴しました多岐にわたるご意見は、早々、今後の番組企画の立案等に反映されて参りたく存じます。また、皆さまの地域や近隣に於かれましても、何かありましたら、引き続きご紹介くださいませ。今後の番組再編とともに、積極的に取材や紹介などさせて頂ければと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(3) その他事項・今後の放送番組審議会開催日程について

次回は 平成 29 年 11 月 30 日(木) 10 : 30～

次々回は 平成 30 年 01 月 18 日(木) 10 : 30～

上記の通りご予約ください。

6. 審議機関の答申または意見の概要の公表

公表の方法 放送事業者が行う放送(放送番組審議会が、必要とした場合に限る。)

当該事項を記載した書面の放送事業者の本社への備置き

放送事業者の電子公告(<http://www.koshigaya.fm/>)で行なう。

公表の内容 上記 1.3 の人数及び 4 から 6 までの事項

公表年月日 平成 29 年 9 月 25 日

7. その他参考事項

特に無し